

研究の成果

北海道大学北方生物圏
フィールド科学センター室蘭臨海実験所
助教授 長里千香子
理学部生物学科卒業平成8年3月



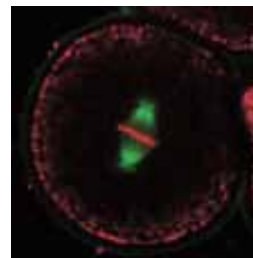
岩手県釜石市出身の長里さんは生物学が好きで理学部生物学科を志望していた。ちょうど高校の担任の先生が山形の理学部出身だったことがご縁で山形大学に進学したのだった。卒業後は、北海道大学の大学院に進み、理学研究科博士課程を修了。現在は、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター室蘭臨海実験所で助教授として研究に励んでいる。三陸育ちということもあって、海のそばで研究すること、海洋生物を扱った研究をすることを希望していた長里さん。その思いが見事になったわけだ。

そんな長里さんは、山形でどんな4年間を過ごしたのだろうか。「今でも連絡を取りあっているほど仲のいい友達にも恵まれました。でも、ちょっぴりのんびり過ごしすぎたかな。もっと積極的にいるん

希望の研究に取り組み充実の日々。
いまも確かな絆で母校とつながっている。

なことに興味をもって、いろんな本を読んだりもすればよかった。」と当時を振り返る。卒業研究でお世話になった先生からは「卒業間際に見せたあの姿が日常の姿になるようお祈りしております。」というメッセージをいただいたという。逆に言えば、ラストスパートがすごい人という見方もできる。

今ごろはきっと、卒業間際の頑張りや日々をみせているに違いない。そんな中、勤務先の室蘭臨海実験所では、長里さんが北海道大学の大学院に進学するきっかけとなった公開臨海実習が現在も実施されており、ほぼ毎年、山形大学の後輩たちが参加しているのがうれしいと目を細めて語ってくれた。



成